

映画の復元と 保存に関する オンライン ワークショップ 2021

Film Restoration and Preservation
Online Workshop 2021

2006年から始まったこのワークショップは、映画・映像の復元と保存に関する最新情報や現状、今後の映像アーカイブの課題について共に考え、参加者同士のネットワークを広げ、次世代に活躍する人材育成を目的に、開催してまいりました。今年ではウェビナーでのワークショップとして、全国どこからでも参加できるオンライン開催の利便性を生かし、映像アーカイブに関心のあるより多くの方々にご参加いただくため、幅広く基本的な知識を提供する原点に立ち返った内容を企画しております。

映画・映像はかけがえのない文化遺産であることを広く知っていただき、未来の映像文化をより豊かなものにするために、映画・映像産業に関わる人々、一般企業、学芸員、研究者、学生、映画ファンなど映画保存に関心を持つ全ての方々のご参加を心よりお待ちしております。

ワークショップ・プログラマーからのメッセージ

映画や映像のアーカイブ… 興味や関心はあるけど、何から始めたらいいのかわからない、と感じていらっしゃる人も多いのではないのでしょうか。アーカイブってそもそも何をすることなのか—基本をきちんと知っておけば、自分が何をやりたいのか、自分ならば何ができるのかも、はっきりしてくるはず。人と一緒にやった方がいいことも、人に任せただ方がいいところも、見えてくるに違いありません。映像アーカイブへの一歩を踏み出すために、オンライン上で集まる皆さんと一緒に、アーカイブの根本を学んでいきましょう。(とちぎあきら)

2021年1月23日 (土)

11:00~16:45

ウェビナーにて開催

受講料：無料

11:00~11:15

主催者あいさつ

11:15~12:10

講義1 「国立映画アーカイブにおけるコレクション形成
—映画フィルムの整理と目録作成を行う意義について」
大傍正規 (国立映画アーカイブ主任研究員)

12:15~13:10

講義2 「デジタル時代の映画・映像アーカイブにおける課題」
大関勝久 (名古屋大学未来材料・システム研究所特任教授)

13:10~14:00

休憩

14:00~14:55

講義3 「映像アーカイブ—資料の劣化特性と保管・取り扱いの注意点」
佐野千絵 (東京文化財研究所名誉研究員)

15:00~15:55

講義4 「映画関連資料=ノンフィルムについて~京都文化博物館の場合~」
大矢敦子 (京都府京都文化博物館 学芸課 映像・情報室 学芸員)

16:00~16:45

ライトニングトーク(3分×15枠)
※枠を増やして、延長の可能性あり。

【お申込み期間】

2020年12月1日(火)~2021年1月12日(火)
※定員に達し次第締め切らせていただきます。

お申込み方法については、下記のURLをご覧ください。

<http://ws2021kyoto.peatix.com>

【お問い合わせ】

〒530-0035 大阪市北区同心1-8-14

株式会社 IMAGICA Lab. 内

「映画の復元と保存に関するオンラインワークショップ2021」実行委員会事務局

Tel. 06-6353-2195 担当:090-5409-8320(鈴木)

Email: suzuki.hiromi@imagicalab.co.jp

※このイベントは、京都府デジタルリマスター人材育成事業の一環で実施しています

スケジュール

※時間、内容、講師等は変更することがあります。

11:15～12:10

講義1 「国立映画アーカイブにおけるコレクション形成
—映画フィルムの整理と目録作成を行う意義について—」

内容 国立映画アーカイブに勤務するフィルムアーキビストの最大の喜びは、寄贈や購入等の収集活動を通じて取得した未整理の映画フィルム群を正しく目録化して、誰もがアクセス可能な「コレクション」の形に整理することです。本講義では、国立映画アーカイブにおけるコレクション形成の歴史的経緯を振り返りながら、デジタル時代にあっても欠かせない仕事、すなわちモノとしての映画フィルムの整理・分類や同定・目録作成等を行う意義について、理解を深めていただきます。

講師 大傍正規（国立映画アーカイブ主任研究員）
2012年から東京国立近代美術館フィルムセンター研究員（2018年4月に国立映画アーカイブに改組）として、映画フィルムの収集、保存、復元、アクセス業務等に携わり、現在は映画室長として、コレクション全体の管理を行なっている。



12:15～13:10

講義2 「デジタル時代の映画・映像アーカイブにおける課題」

内容 映画、映像の分野はデジタル化の影響を直接的に受け、保存すべき対象も多様となりました。また、これまで保存してきたアナログ原画もデジタル化を迫られています。本講義では保存媒体を含めた技術変化とその変化に対応するための課題について概観します。

講師 大関勝久（名古屋大学未来材料・システム研究所特任教授）
富士フィルムにて写真感光材料の研究に従事、デジタル映画保存用フィルムの開発等を行った。同社退職後、東京国立近代美術館フィルムセンター（当時）にて、「デジタル映画保存・活用調査研究事業」（通称BDCプロジェクト）に参加、現在は名古屋大学未来材料・システム研究所にて素粒子検出用原子核乾板の研究開発に従事。

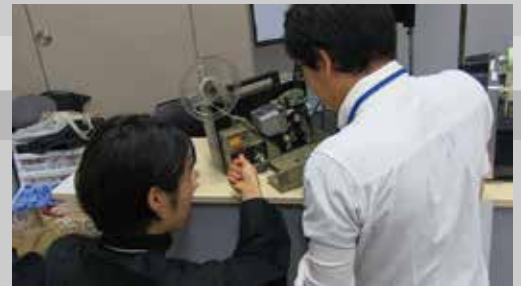


14:00～14:55

講義3 「映像アーカイブ—資料の劣化特性と保管・取り扱いの注意点」

内容 映像アーカイブで取り扱う視聴覚資料や紙資料について、材料・構造・製造技術とその歴史について概説します。各材料の劣化の起こりやすさを考え、保管の基本原則や取り扱い上の留意点について解説します。

講師 佐野千絵（東京文化財研究所名誉研究員）
国立文化財機構東京文化財研究所で、絹・漆・紙・インク・フィルムなど有機質文化財の材料・製造技術の歴史の変遷の研究、温湿度・照明・空気汚染・生物被害など資料の周辺環境と劣化について研究。被災資料の修復処置、保管方法の研究に化学・生物学的視点から従事。理学部化学科卒業、理学系研究科化学専攻修了、理学博士



15:00～15:55

講義4 「映画関連資料=ノンフィルムについて～京都文化博物館の場合～」

内容 フィルムアーカイブの仕事として、映画=フィルムを扱うことと同じくらい重要なのが、映画関連資料=ノンフィルムを扱うことです。今回はノンフィルム、いわゆるポスターやシナリオ、スチル、などのフィルム以外の資料について、京都文化博物館のコレクションを中心に、その収集・保存・公開等についてお話しいたします。

講師 大矢敦子（京都府京都文化博物館 学芸課 映像・情報室 学芸員）
立命館大学大学院文学研究科 博士課程後期課程卒業。尾上松之助の研究で博士論文を執筆。在学中は、立命館大学アートリサーチセンターでのマキノ・プロジェクトの活動や、コロンビア大学東亜図書館で牧野守コレクションの整理にも一部携わる。2011年から京都文化博物館学芸課映像・情報室に勤務。



16:00～16:45

ライトニングトーク

内容 企業・団体・個人を問わず、映像アーカイブをテーマに3分間の枠で、研究内容、作業事例、問題提起等、発表いただきます。発表者につきましてはウェビナー参加者の方から募集いたしますので、皆様のご参加をお待ちしております。
※詳しい募集要項につきましてはPEATIXをご参照下さい。



※写真はすべて昨年度のワークショップ風景

■主催

「映画の復元と保存に関するオンラインワークショップ2021」実行委員会
京都府、京都府京都文化博物館、株式会社IMAGICA Lab.

■「映画の復元と保存に関するオンラインワークショップ2021」パートナーズ

株式会社足柄製作所、株式会社アルプスピクチャーズ、一般社団法人京都映画芸術文化研究所（おもちゃ映画ミュージアム）、京都クロスメディア推進戦略拠点、神戸映画資料館（NPO法人プラネット映画保存ネットワーク）、NPO法人映画保存協会、共進倉庫株式会社、合同会社グラフィクス、コダック合同会社、株式会社松竹撮影所、株式会社資料保存器材、株式会社ツクリエ、デジタルアーカイブ学会、東映株式会社京都撮影所、東映ラボ・テック株式会社、株式会社東京現像所、株式会社東京光音、一般社団法人日本映画テレビ技術協会京都支部、一般社団法人日本映像アーキビスト協会、プラネット映画資料図書館、株式会社吉岡映像